

A型男児にA B型の輸血 千葉県こども病院で医療事故 バーコード照合・名前確認行わず

2021年12月27日 21:33 | 無料公開



輸血ミスについて謝罪する千葉県こども病院の星岡明病院長（右から2人目）ら＝27日、県庁

千葉県こども病院（千葉市緑区）は27日、昨年12月に心臓手術を受け集中治療室（ICU）に入院していた血液型A型の当時生後1カ月の男児にA B型の血液を輸血する医療事故があったと発表した。星岡明病院長は「患者や家族に心配や迷惑をかけた。深くおわび申し上げます」と謝罪した。男児に容体の悪化などはなく、今年1月中旬に退院したという。

同病院によると、男児は先天性の心疾患と診断され同病院で心臓手術を受けた。術後、ICUで看護師が男児の輸血容器を交換する際に、A B型の乳児のために準備していた容器と取り換え、約1時間40分間にわたって約5ミリリットル輸血した。A B型の乳児の輸血容器を交換する時に、容器が見つからなかったことから発覚した。

同病院は輸血する直前に容器と病床のバーコードを読み取り照合する決まりとなっていたが、読み取りを怠った上、容器のラベルに記載された名前の確認も行っていなかった。男児に事故による障害はなく、心疾患の治療後に退院した。男児の家族と和解が成立している。

同病院は外部委員も入れた事故調査委員会を立ち上げ、事故調の提言を受けて再発防止策を検討。輸血準備の見直しや手順の確認徹底などに取り組むとしている。県庁で会見した星岡病院長は「全ての病棟でしっかりとバーコードによる事前確認を行っていく」と話した。

千葉日報だけの「社会」記事を見たい方

まずは会員登録 (/chibatopi_regu1/?nid=864015)

あなたにオススメ

